

## 設計演習 III

07

## 1. 都賀川沿いに建つ&lt;子育てスクエア&gt;

開講年次：学部3回生前期

[担当教員]

三輪康一（教授） 大西一嘉（准教授） 槻橋修（准教授）  
寺岡宏治（安井建築設計事務所）

[Teaching Assistant]

岡田朋大（A63） 鎌田悠也（A63） 中川絵理香（A63）

## ■課題の概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることは様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

- (1) 次世代をになう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用できる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。
- (4) 3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針（デザインコード）を設定することが望ましい。

## ■敷地

- (1) 別図に示すような、灘区都賀川沿いの敷地を想定する。
  - ・「児童館」敷地①約 2030 m<sup>2</sup>=東西 30m× 南北 70m(変形あり)
  - ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m<sup>2</sup>=東西 62m× 南北 25m
  - ・「保育所」敷地③約 3100 m<sup>2</sup>=東西 62m× 南北 50m
  - ・用途地域等
- 近隣商業地域/建蔽率 80%、容積率 400%、防火地域
- (2) 河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

## ■提出図面

- ・用紙 A1判ケント紙（仕上げ自由）
- ・配置図 1/500 or 1/1000  
3つの建物外形を屋根伏図で示す。
- ・各階平面図 1/100  
一階平面図には、外部空間の計画を明示する。
- ・立面図 1/100 2面以上。
- ・断面図 1/100 設計意図のわかる断面を1面以上。
- ・外観透視図（着色仕上げ）or スケッチ、模型写真でも可

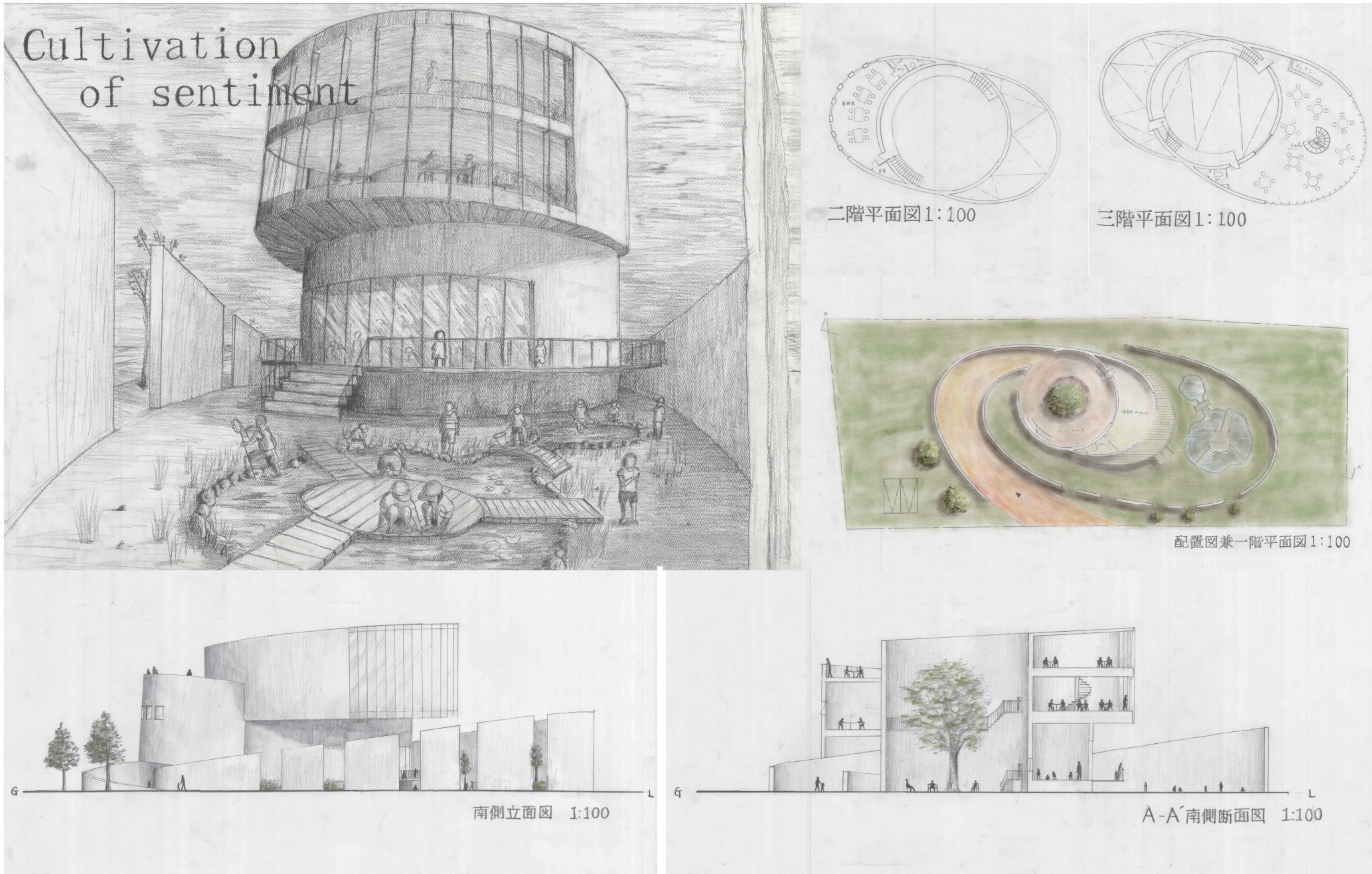


SCALE 1/2500 国土地理院 地理院地図 (https://maps.gsi.go.jp/) をもとに編集者作成

## Cultivation of sentiment

稲生晴大

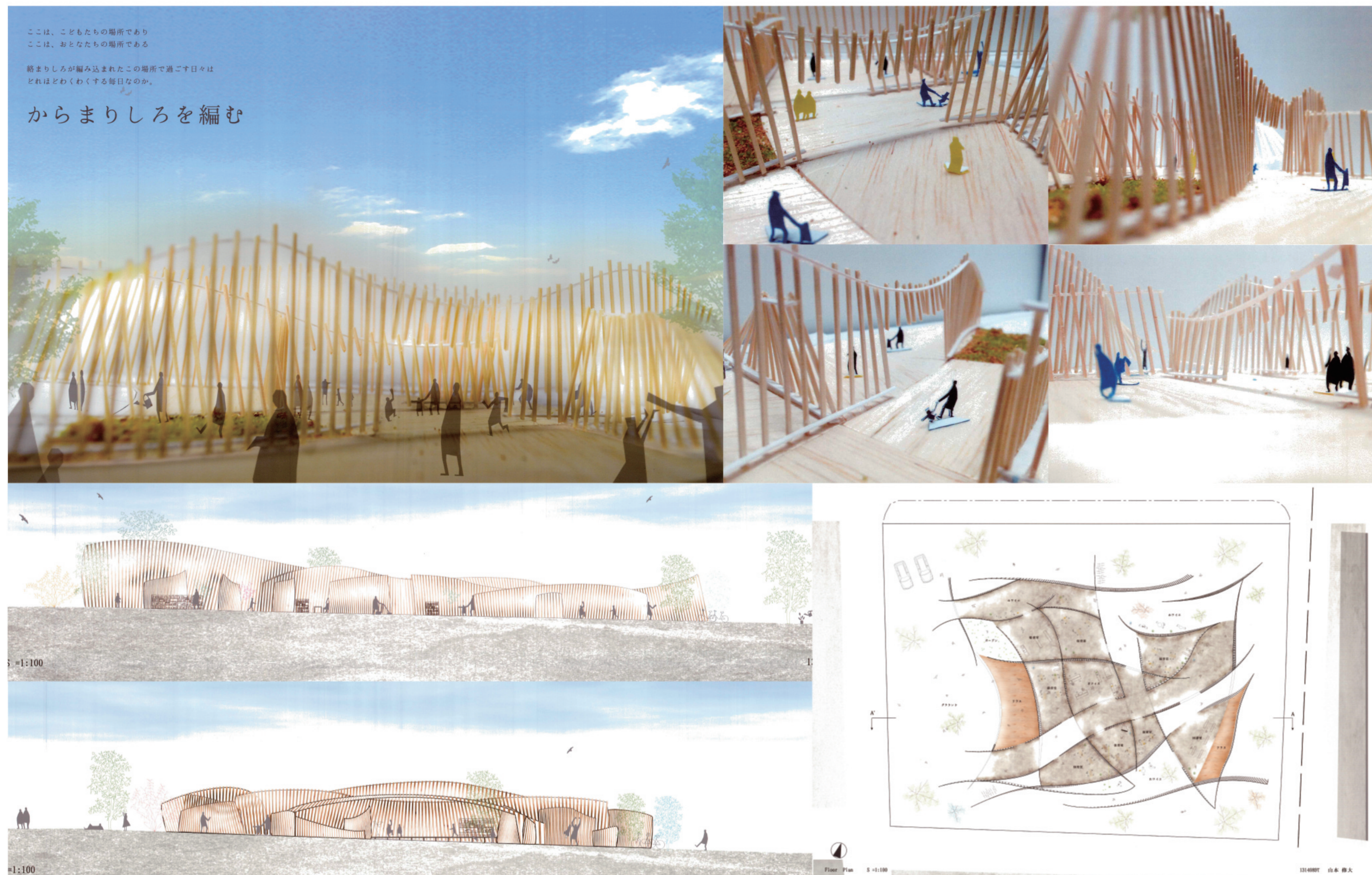
タイトルは「情操の涵養」と訳し、ここでは子供たちが自然と触れ合い、感情を豊かにするために、建物内外から自然を身近にできるように計画されている。また、子供の興味を引く動線、親が子供に向ける視線も意識している。



## からまりしろを編む

山本修大

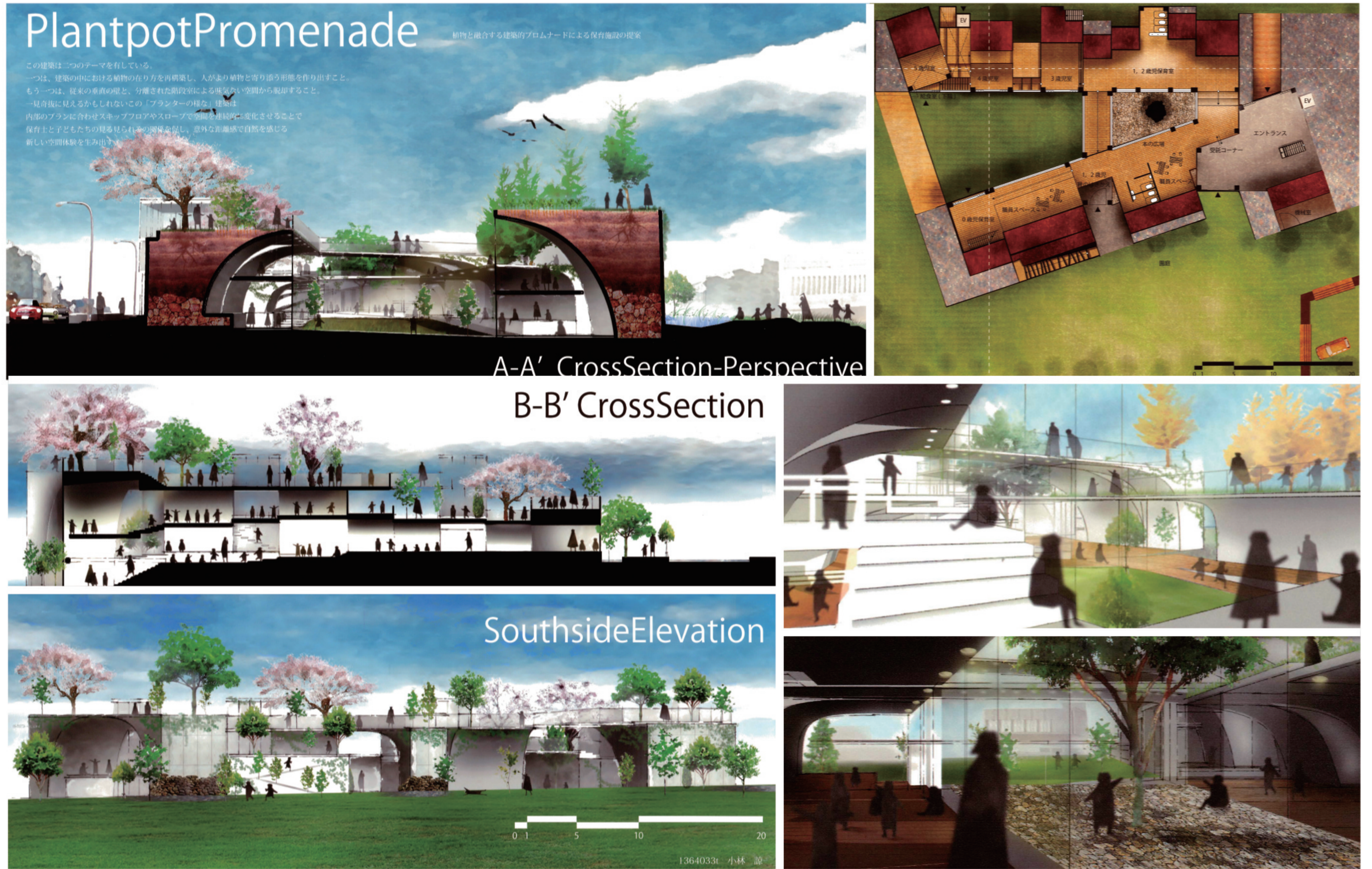
遅く成長して欲しいと思う一方で、危険にさらしたくはないと子どもたちを閉じ込めているのではないだろうか。そこで、都賀川の側に単純な線材で透過性を帯びた豊かな曲面壁を構成し、子どもたちと地域の人々が緩やかに交わることのできる保育所を提案する。



# PlantpotPromenade

小林 諒

回遊性を保ちつつも内外が混ざり合うような平面計画に加え、曲面の壁は子どものスケールから木々のスケールまでを滑らかに繋ぎ、同時に屋上の植生を変化させる機能を担う事で、この保育所は敷地に根付くような建築となる。



# Conective Nursery

田中理貴

『子どもが自ら考え、遊ぶ場』に基づき、保育所を設計した。建物内外を直方体ユニットの相貫で構成し、ユニット同士のズレが敷地全体に多種多様な空間を生み出す。形も大きさもばらばらな広場と段差の中で、子どもたちは新たな遊びを見出していく。

